

THOMSON DELPHION		RESEARCH My Account Products	PRODUCTS Search: Quick/Number Boolean Advanced	INSIDE DELPHION
-----------------------------------	--	--	--	------------------------

The Delphion Integrated View

Buy Now: <input checked="" type="checkbox"/> PDF More choices...	Tools: Add to Work File: Create new Wor
View: INPADOC Jump to: Top <input checked="" type="checkbox"/> Go to: Derwent...	<input checked="" type="checkbox"/> Em

Title: **JP6348984A2: EMERGENCY REPORT CONTACT DEVICE**
 Country: **JP Japan**
 Kind: **A**
 Inventor: **SHIMURA YOSHIKAZU;**
 Assignee: **OI DENKI KK**
 [News, Profiles, Stocks and More about this company](#)
 Published / Filed: **1994-12-22 / 1993-06-08**
 Application Number: **JP1993000137248**
 IPC Code: **G08B 25/08; G08B 25/10; H04H 1/00;**
 Priority Number: **1993-06-08 JP1993000137248**
 Abstract:

PURPOSE: To provide an emergency report contact device which can quickly and surely report the disaster information to a prescribed receiver by a simple operation.

CONSTITUTION: An emergency report contact device consists of a console 10 and a control main body part 12 which reports the information to a prescribed receiver through a circuit and by the control signal received from the console 10. The console 10 includes a computer 10a which previously stores the prescribed report receiver and the report contents and sends a control signal including the receiver pager call to the part 12 and a pager 10e which receives an answer from the receiver and sends the received contents to the computer 10a. When the pager 10e receives an answer from a person who received the report, the pager 10e sends the answer information to the computer 10a. Then the computer 10a displays the received answer information.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO

INPADOC Legal Status: **None** **Buy Now:** [Family Legal Status Report](#)
 Family: [Show 2 known family members](#)
 Other Abstract Info: **DERABS G95-071330 DERG95-071330**



[Nominate](#)

[this for the Gallery...](#)



© 1997-2003 Thomson Delphion

[Research Subscriptions](#) | [Privacy Policy](#) | [Terms & Conditions](#) | [Site Map](#) | [Contact U](#)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-348984

(43) 公開日 平成6年(1994)12月22日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 8 B 25/08	A	9377-5G		
25/10	D	9377-5G		
H 0 4 H 1/00	D			

審査請求 未請求 請求項の数 1、OL (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平5-137248

(22) 出願日 平成5年(1993)6月8日

(71) 出願人 000204424

大井電気株式会社

神奈川県横浜市港北区菊名7丁目3番16号

(72) 発明者 志村 嘉一

神奈川県横浜市港北区菊名7-3-16 大

井電気株式会社内

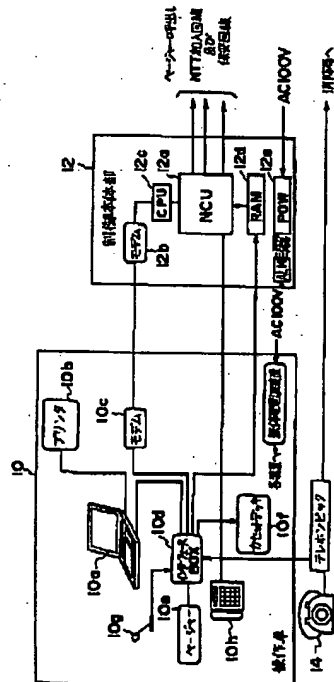
(74) 代理人 弁理士 吉田 研二 (外2名)

(54) 【発明の名称】 非常時通報連絡装置

(57) 【要約】

【目的】 簡単な操作で所定の通報先に迅速、かつ確実に災害情報を通報することができる非常時通報連絡装置を提供する。

【構成】 操作卓10と、この操作卓からの制御信号に基づき回線を通じて所定の通報先に通報する制御本体部12から構成される。前記操作卓10は所定の通報先及び通報内容が予め格納され、前記制御本体部12に通報先ページャー呼出しを含む制御信号を送信するコンピュータ10aと、前記所定の通報先からの応答を受信し、受信内容を前記コンピュータに送信するページャー10eとを有する。被通報者がページャー10eに応答すると、ページャー10eは応答情報をコンピュータ10aに送信し、応答情報を表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 発災時に所定の通報先に災害情報を自動通報する非常時通報連絡装置であって、
操作卓と、

この操作卓からの制御信号に基づき回線を通じて所定の通報先に通報する制御本体部と、
から成り、

前記操作卓は、

所定の通報先及び通報内容が予め格納され、前記制御本体部に通報先ページャー呼出しを含む制御信号を送信するコンピュータと、

前記所定の通報先からの応答を受信し、受信内容を前記コンピュータに送信するページャーと、
を有することを特徴とする非常時通報連絡装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は非常時通報連絡装置、特にページャー（携帯電鈴用受信機）を用いた非常時通報連絡装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、火災等の災害発生時に消防署はじめ官庁や所定の通報先に災害の発生や災害状況を通報する非常時通報連絡装置が知られている。

【0003】 従来の非常時通報連絡装置は、電話回線に接続された回線制御部と、オペレータが操作する操作部が一体となった通報支援装置であり、この装置を操作することにより所定の官庁や特定の社員等の関係者に電話による通報を行っていた。

【0004】 すなわち、災害が発生すると、所定位置に設置されているホットラインにより消防署へ通報するとともに、この支援装置を操作して所定官庁へオートダイヤルする。官庁と接続された場合には、オペレータが肉声により災害の発生その他災害状況を通報する。そして、次にオペレータは再び支援装置を操作して関係者に自動ダイヤルし、予め作成された災害メッセージを流すことにより災害状況を通報する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 このように、従来の非常時通報連絡装置では、消防署、官庁、関係者の順に発災を通報するが、その都度オペレータが支援装置を操作して通報しなければならない問題があった。また、従来の非常時通報連絡装置は回線に接続された回線制御部と操作部が一体となっており、装置規模が大きく、設置場所がかなり限定されてしまうととも、その操作が容易でない問題があった。

【0006】 さらに、関係者に電話で発災を通報しても、その関係者が外出中である場合があり、必ずしも確実に災害状況を通報することができない問題もあった。

【0007】 本発明は上記従来技術の有する課題に鑑み、なされたものであり、その目的は、簡単な操作で所定の

通報先に迅速、かつ確実に災害情報を通報することができる非常時通報連絡装置を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明の非常時通報連絡装置は、操作卓と、この操作卓からの制御信号に基づき回線を通じて所定の通報先に通報する制御本体部から成り、前記操作卓は、所定の通報先及び通報内容が予め格納（記憶）され、前記制御本体部に通報先ページャー呼出しを含む制御信号を送信するコンピュータと、前記所定の通報先からの応答を受信し、受信内容を前記コンピュータに送信するページャーとを有することを特徴とする。

【0009】

【作用】 このように、本発明の非常時通報連絡装置では、操作卓と制御本体部とが分離されているため、操作卓を所望の位置に設置することができる。また、この操作卓はコンピュータにより通報制御するので、操作性を向上することができる。

【0010】 さらに、ページャー呼出しを可能とすることで確実に特定人に通報することができるとともに、通報先からの応答を操作卓のページャーにて受信することができるので、応答の有無を迅速に把握することができる。

【0011】

【実施例】 以下、図面を用いながら本発明の好適な実施例について説明する。図1には本実施例における非常時通報連絡装置のシステム構成図が示されている。本実施例の非常時通報連絡装置は、操作卓10と、制御本体部12から構成されている。制御本体部12は、回線制御ユニットNCU12a、操作卓10からの制御信号を受信するモデム12b、CPU12c、RAM12d、電源POW12e、及び警報器ALM12fを含んで構成される。NCU12aは電話回線や保安回線、ポケットベル呼出用回線など合計9回線（通報用7回線、応答用2回線）に接続されており、操作部10からの起動信号により加入電話5回線を電話交換機から本装置に切り替え、モデム12bを介して操作卓10から送信された制御信号に基づき所定の通報先に災害情報を通報する。ここで、回線切り替えの際、切り替える回線が話中の場合には、所定の回線切り替えのメッセージを流してから回線を切り替える。切り替えのメッセージは、例えば以下のようなものである。

【0012】 「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。ただ今からこの電話回線を使用させていただきますので至急電話をお切り下さい。繰り返します。こちらは**火力発電所です。ただ今からこの電話回線を使用させていただきますので至急電話をお切り下さい。」

一方、操作卓10は、ノート型パーソナルコンピュータ10a、このコンピュータ10aに接続されるプリンタ10b、モデム10c、インターフェース10d、この

インターフェース10dを介してコンピュータ10aに接続されるページャー10e、カセットデッキ10f、マイクロフォン10g、及び制御本体部12に直接接続されるハンドセット10hを含んで構成される。また、操作卓近傍には消防署への通報用のホットライン14が敷設されており、このホットライン14はインターフェース10dを介してカセットデッキ10fと接続されている。コンピュータ10aは平日モード及び休日モードの2つの通報モードを内蔵しており、動作時の日時により自動的にモードを選択して通報を行う。また、コンピュータ10aには通報者データが登録データとして格納されるとともに、複数の通報パターンを格納し、オペレータの選択により災害状況に応じた通報を行う。関係者へ通報する場合、登録された電話番号の桁数により、保安回線を利用するか、あるいは加入回線を利用するかを自動選択して通報を行う。なお、通報パターンとしては、例えば、火災発生、油流出、非常自体発生、訓練等である。

【0013】本実施例の非常時通報連絡装置はこのよう
な構成を有しており、以下その動作を詳細に説明する。

【0014】まず、火災などの災害が発生すると、ホットライン14により消防署へ火災及び災害状況が通報され、その内容はインターフェース10dを介してカセットデッキ10fのカセットテープに録音される。カセットテープに録音された消防署への通報内容は、所定時間テレホンサービスとして電話回線を通じて流す。また、必要に応じてマイクロフォン10gにより応答サービスの内容を再録音することができる。

【0015】次に、オペレータは操作卓10のコンピュータ10aを操作して所定の官庁へ自動ダイヤルする。すなわち、官庁のデータは予めコンピュータに記憶されており、オペレータによる所定のキー操作によりコンピュータ10aはこれらの官庁先にモデム10cを介して自動ダイヤルする。所定の官庁に接続された場合、オペレータはハンドセット10hを用いて災害状況を通報する。

【0016】官庁への通報が終了した後、コンピュータ10aは関係者のページャーを一斉に呼び出す。すなわち、予め記憶されたページャーの電話番号を自動ダイヤルしてページャー呼出し回線により関係者に災害状況を通報する。なお、このページャー呼出しの際には、災害内容もコードで通報され（予めこれらの災害内容コードが記憶されており、オペレータがこれらの災害内容コードを適宜選択する）、例えば以下のようなメッセージが以下のようなコードで通報される。

【0017】火災発生 : [51] - 01
油流出事故 : [51] - 02
非常事態発生（出社） : [51] - 03
非常事態発生（待機） : [51] - 04
訓練 : [51] - 00

なお、[51] は災害発生場所を示し、次に続くコードが災害内容である。

【0018】ページャーへの一斉呼出しが終了した後、さらにコンピュータ10aはページャー10eに応答しない関係者に対して電話回線による通報を行う。すなわち、予め記憶された関係者の電話番号を自動ダイヤルし、音声合成による災害メッセージを流すことにより災害状況を通報する。音声合成による災害内容の通報も、前述のページャー呼出しと同様に複数のメッセージが予め記憶されている。音声メッセージ内容は、例えば以下のようなものである。

【0019】火災発生

「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で火災が発生しました。至急出社して下さい。繰り返します。こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で火災が発生しました。至急出社して下さい。受信を確認したならば確認番号を押して下さい。」

油流出事故

「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で油流出が発生しました。至急出社して下さい。繰り返します。こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で油流出が発生しました。至急出社して下さい。受信を確認したならば確認番号を押して下さい。」

非常事態発生（出社）

「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で非常事態が発生しました。至急出社して下さい。繰り返します。こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で非常事態が発生しました。至急出社して下さい。受信を確認したならば確認番号を押して下さい。」

非常事態発生（待機）

「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で非常事態が予想されるため、待機して下さい。繰り返します。こちらは**火力発電所です。緊急指令について連絡します。構内で非常事態が予想されるため、待機して下さい。受信を確認したならば確認番号を押して下さい。」

訓練

「ピンポン2回・・・こちらは**火力発電所です。非常時通報装置の受信確認テストを行います。繰り返します。こちらは**火力発電所です。非常時通報装置の受信確認テストを行います。受信を確認したならば確認番号を押して下さい。」

なお、確認番号は予め関係者に報知された番号であり、例えば「10」としておけばよい。

【0020】このようにして消防署、官庁、及び関係者に電話回線及びページャーにより災害を通報するが、関係者の場合、この通報に応答する方法として、電話回線

を使用する方法と、操作卓10に設置されたページャー10eに応答する方法がある(上述したように、本実施例ではページャー10eに応答しない関係者に対しては、電話回線により災害を通報するとともに確認番号を返送するように自動通報する)。関係者(すなわち被通報者)がページャー呼出しに応答して操作卓10のページャー10eに連絡をいれた場合、ページャー10eは応答情報をインターフェース10dを介してコンピュータ10aに送信する。コンピュータ10aは関係者通報先連絡のリストを画面上に表示すると共に、ページャー10eからの応答情報に基づき応答があった被通報者欄(所属、名前、電話番号)を赤く反転させ、応答があった旨をオペレータに報知する。

【0021】一方、関係者が電話回線により応答する場合、モデム10cを介して制御本体部12から応答信号がコンピュータ10aに送信される。コンピュータ10aは電話はつながったが応答信号が返送されない場合には上記した被通報者リストの所属と名前のみを赤く反転させ、電話がつながり応答信号「10」が返送された場合には、被通報者欄の全てを赤き反転させて応答の有無をオペレータに報知する。そして、必要な場合には、オ

ペレータはコンピュータ10aの印字キーを操作することにより表示内容をプリンタ10bで印字することができる。

【0022】なお、操作卓10のコンピュータ10aにより本装置が起動できない緊急時には、制御本体部12に直接接続されているハンドセット10hを用いて通報先にダイヤルすることが可能である。すなわち、制御本体部12のNCU12aの非常時通報解除スイッチをonとするとともに、ハンドセット10hとの接続スイッチを接続側に設定してハンドセット10hのプッシュボタンにより直接官庁や関係者に通報することができる。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の非常時通報連絡装置によれば、簡単な操作で所定の通報先に迅速、かつ確実に災害情報を通報することができる。

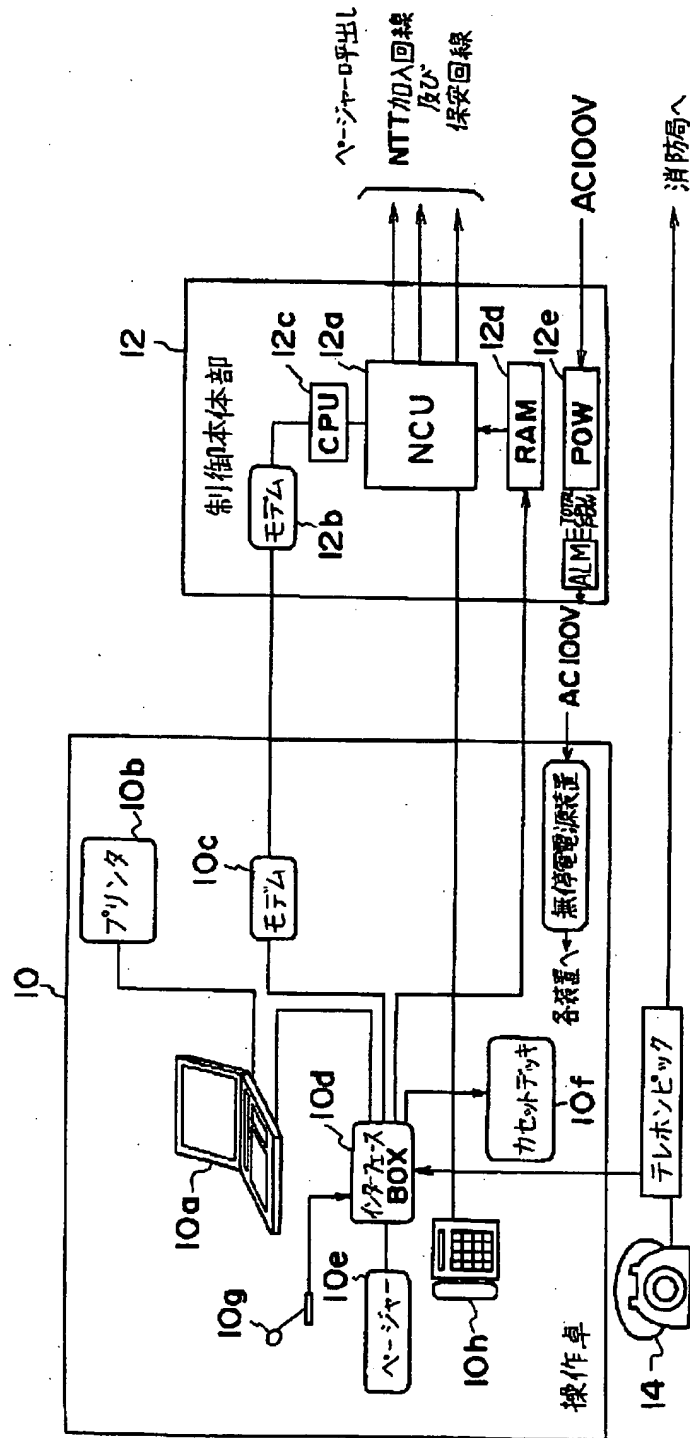
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例のシステム構成図である。

【符号の説明】

- 10 操作卓
- 12 制御本体部
- 14 ホットライン

【図1】



THIS PAGE BLANK (USPTO)